

窓リフォームで快適な暮らしを叶えよう！

窓リフォームのメリットと施工方法



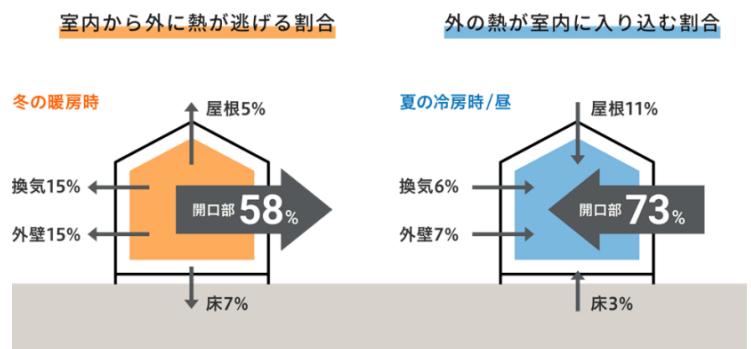
冬は室内なのに寒く、結露が発生しカビが...

夏は日差しが強く、室内にいても熱中症が心配...なんてお困りごとは

ありませんか？窓をリフォームすることで、日々の生活が快適になります。

室内の暑さや寒さは「窓がカギ」

窓をはじめとする開口部からは、冬の暖房が効いた部屋から熱が逃げる割合が58%、逆に夏の冷房を効かせている部屋に入ってくる割合は73%にも及ぶことがデータとして可視化されています。つまり、暑さの原因7割、寒さの原因6割は窓といえます。



※出典：日本建材・住宅設備産業協会省エネルギー建材普及促進センター「省エネ建材で、快適な家、健康な家」

窓リフォームのメリット

結露対策

寒い時期に部屋で暖房を使うと窓ガラスに結露ができます。結露は室内外の温度差が大きいときに室内の湿度が高いと発生します。

結露は拭き取らずに放置しておくと、窓まわりの壁やカーテン、サッシなどにカビやダニを発生させる原因となり、健康被害をもたらすこともあるため、断熱性の良い窓に変えることで結露を軽減することができます。

日射対策

窓際に近づいたときに足元に冷たい空気を感じるの、窓の断熱性が低く外気が室内に入り込んでいる証拠です。窓リフォームで断熱性を高められるため、冷暖房の効きをよくすることができます。快適性を高めるだけでなく、節電にもつながります。



防音対策

環境によっては、車や電車の通る音が気になったり、周辺からの騒音が気になったりする場合は、音を遮断できる素材を用いた窓ガラスにリフォームすることで、外部の音をカットできます。

防犯対策

住居侵入による犯罪の手口として最も多い手段はガラス破りです。ガラス破りとは窓ガラスを割って鍵を外から開けて侵入することです。

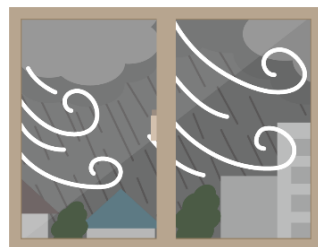
泥棒は侵入に時間がかかる家は避ける傾向にあります。そのため、割れにくい素材の窓ガラスにリフォームすることで、防犯対策が行えます。



災害対策

頑丈な窓にリフォームすることは、お家を犯罪から守るだけでなく、台風や地震などの自然災害でも効果を発揮します。

例えば台風の強風により飛来物が窓ガラスに当たっても、頑丈な窓ガラスであれば被害を最小限に抑えられます。



窓リフォームの種類とそれぞれの効果やデメリット

内窓

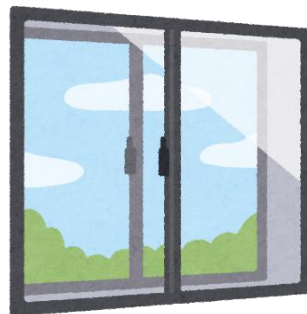
内窓とは、既存の窓の内側にもう1つ別の窓を取り付けて二重にしたものです。外窓と内窓の間に空間ができ、断熱効果が高まります。室内が外気の影響を受けにくくなるため、より快適に過ごせるようになります。

また、屋外と室内の気温差がやわらぎ、結露対策にもなります。

さらに、防音や防犯などの効果も期待できます。内窓（二重窓）を追加するだけで幅広い効果を期待できるため、複数の効果を求めている場合にはおすすめです。

しかし、窓の開閉の際に2つの窓を開ける手間があるため、頻繁に開閉する窓ではストレスになることがある。

掃除の手間が増えるなどのデメリットもあります。

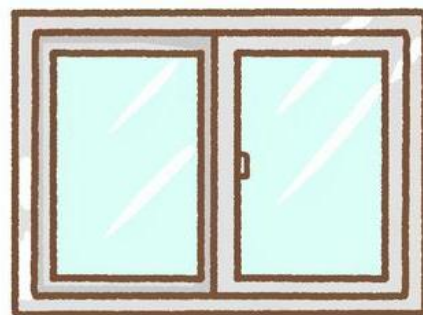


サッシ交換

既存の窓を取り外し、新しい窓に交換する工事のことです。

断熱効果に加え、気になる劣化や古さだけでなく、がたつきやすきま風などの不具合も解消できます。また、窓の種類や色も変えることで見た目が新しくなります。

しかし、内窓やガラス交換に比べると費用が高くなるデメリットもあります。



ガラス交換

窓のガラスのみを交換する工事です。昔の窓ガラスは「単板ガラス」といい、1枚のガラスがあるだけです。

これを複層ガラスのいう2枚1組になったガラスに交換します。ガラスとガラスの間にうまれた空気の層が断熱性能を高めてくれます。しかし、サッシが歪んでいると思ったような効果が得られない場合などもある。

また、防音や防犯や優先している方や見た目をよくしたいという方、既存のサッシを20年以上使用している方などは、内窓やサッシ交換を検討したほうが良い場合もあります。

ご自身の生活に合わせた窓リフォームをすることで、快適な生活環境をもたらします。

また光熱費の節約、ひいては環境負担の軽減に貢献できるなど、たくさんのメリットがあります。

窓の断熱性を高めるために、リフォームも選択肢に入れてみてはいかがでしょうか。

住宅省エネ2025キャンペーン
**先進的窓リノベ
2025事業**
窓のリフォームを検討している方へ
最大 200 万円
の交付が受けられます。

住宅省エネ2025キャンペーンの補助金を利用して、お得にリフォームできます！

予算がなくなり次第終了となるため、リフォームをご検討の方は、お早めにご連絡ください。